

台湾は平和を望む 第二のウクライナになるのは御免だ

イエン・モー ([Yen Mo](#))

モダン・ディプロマシー 2023年2月19日

[Taiwan wants peace, and refuse to be another Ukraine - Modern Diplomacy](#)

台湾問題に対する西側の見方は不正確、もっと言えば一般化されている。台湾について詳しい知識がないし、あっても知らないふりをしている。というのも国連が「中国の唯一の合法政府」を台北から北京に移譲したからである。

事実は、台湾は独立しておらず、独立するともっていない。実際は、今でも中国全土の政府であると主張しており、まさには、「統一」までは「自由中国」に投票すること暫定的に憲法で規定しているのだ。

台湾の根底にある真実は、1940年代に始まった中国の内戦が、一度も正式に終了していないことである。したがって、台湾問題は「国際問題」ではなく、「中国問題」なのである。

だから、人々が西側は台湾を支持すべきと言っても、具体的にどういうことなのか確信がない。台湾の独立を支持するのか、台湾が中国全土を統治することを支持するのか、明らかにそのいずれでもない、そこが問題なのだ。

要するに、西側が気にしている問題の根本は、台湾のことではなく、中国のことであり、正確には、ワシントン-北京のことなのである。

先に手を出したのは誰か？

民主的に統治された島に対して中国が軍事、外交、経済の圧力を強めているから、ワシントンと台北は緊密な関係を築いているのだ。米国はそう言い続けて

いるが、北京から見れば、米国は中国を弱体化し分裂させる道具として台湾を使い始めているのである。

先に手をだしたのは誰だったのか？

実は2016年までは、台北と北京は平和で安定した発展に向かって進んでいたのだが、台湾と米国はその後、対中政策を変えた。そして米台の協力は圧力を強め、許容できる最低値である「一つの中国という原則」に挑戦している。そのことが台湾への軍事的圧力を引き起こしているのだ。

いま米国は、中国がウクライナ侵略を前例にして軍事行動を起こし、台湾の武力統一を狙っていると懸念している。しかし2つのケースを類似させようとしても、識別は難しい。

端的に言って、ウクライナは疑いなく独立国家だが、台湾はそうではない。中国は台湾を「自国の一部」と主張し、米国はこれを尊重する立場である。

最も重要なことは、台湾の人々は平和を望んでおり、我々はウクライナのようにはなりたくないと思っていることである。戦争はしたくないし、「ウクライナ方式」は選択肢にない。

ウクライナを武装させ、台湾を武装させる

台湾の武装。中国へ抵抗する台湾の意思を米国が「評価」するやり方は、台湾人に抵抗を「押し付ける」ことである。台湾の与党は、米国がリストアップしたものをすべて取り込んでいる--武器と兵役義務の4ヶ月から1年への延長、そして非対称戦闘への軍事戦略の変更—これらは米軍の刃先になるためである。

2022年の統一地方選挙で台湾人は態度を表明した。そこで与党はお粗末な結果を残し、欧米を驚かせた。蔡英文総統は、中国との緊張が高まる中で、民主主義への投票をよびかけたが、有権者は答えなかった。

蔡英文総統は、北京は台湾に敬意を示す必要があり、台北は圧力に屈しないと述べ、中国に対して強い姿勢をとってきた。しかし、昨年夏のナンシー・ペロシ米下院議長の台湾訪問に抗議して中国が台湾周辺で軍事演習を行った後は、人々は蔡英文の台湾防衛能力を疑っている。

米国は台湾の人々が実際に何を望んでいるのか知らない。あるいは、実際には知っているが気にしていないだけだ。彼らが気にするには、自分たちの望みだけだなのだ。

しかし私たちは気にする。台湾は平和を望んでおり、ウクライナのようになることは御免被る。

(了)



イェン・モー (Yen Mo) フリーライター。台湾の時事問題のコメンテーターで、台湾、中国、アメリカの政治情勢やテクノロジー産業の分析などを中心に、中国や台湾のメディアで幅広く執筆している。電子メール：decdiver[at]gmail.com